

木の実を見立てる

「お休みの時に森をフリーに遊んでもらいたいね」と松戸の森で始めた「ぷらっとみんなの森」。その森の中でのことです。親子二組が遊びにやってきました。小学生低学年の女の子二人が木の実を集めてきました。やおらブルーシートの上に座り、テーブルになにやら置き始めました。木の実のほかに黄色く色づいた葉っぱもありました。どうするのか？見ていました。森で摘んだ木の実の袋と箱を取り出しました。「箱に入れてお弁当にしよっか」「木の実を食べるの？」と言い始め、箱もテーブルに乗せたので、ままごとが始まりそうだと間合いを計っていました。一步近づいてムシャムシャ食べる仕草をしたところ、「ダメです。まだ始まってません」と待たされました。「はい、どうぞ」というので「ササの葉のお金でいいですか？」と聞きました。「はい、いいです」と仲間になりました。それから、あらかじめ作ってあったササの葉のササブネを渡しました。「木の実をひとつください」というと、大きな葉っぱに乗せたトチの実を出してくれました。黄色く色づいたはっぱのお皿もきれいでした。ササの葉は手元にあったオカメザザの葉をちぎってササブネを2つほどこしらえてありました。

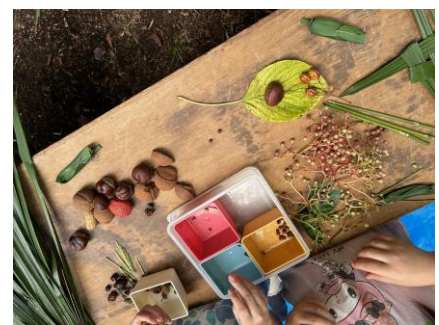
トチの実のほかにミズキと思われる小さな木の実もありました。「これもください」というと、「はっぱのお金を払ってください」と返って来ました。ササブネを渡しました。「この実も食べてください」と大きな黄色い葉っぱに乗った木の実が出てきました。

「おいしそうですね」というと「おいしいですよ」と返って来ました。ごっこ遊びの展開です。テーブルと2種類の木の実とササの葉が遊びの道具に早変わりする瞬間でした。このシチュエーションを作り出す想像力と創造力がこの子たちに備わっているということに今更ながら驚きました。

自分の子どもを育てている時は、あまり感じなかった力をこの二人は存分に発揮していると思ったのです。二人が持っている想像する力や生み出す力が優れているという気がするのです。

専門分野の本によると、はっぱ＝お金、木の実＝お饅頭と変換するのは象徴的思考の典型だということです。子どもは物語を紡ぎながら、世界を再構築していきます。創造力と想像力の交差点だという解釈でした。

孫を含めて幼児・小学生と遊んでいると、おもちゃのトラックが暴走を始めたり、怪獣が襲ってきたりすることがあります。これもストーリーを即興で構成した結果です。お母さん役やお父さん役になるのも役割を演ずる力であり、物語を進めるにあたって、友達を先生役にすることが整然と行われているのも、自分と他者の社会的役割分担が整理されていることなのだそうです。そうした力がこの年齢で育っているのかと感心せざるを得ませんでした。この子たちと一緒にになるとファンタジーの世界に迷い込むかもしれません。



木の実食事処

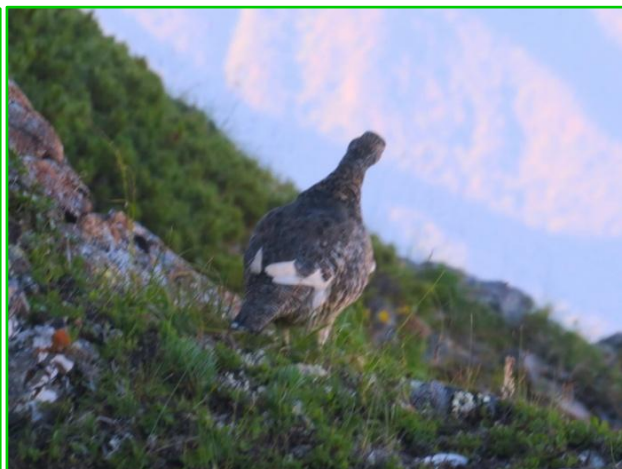
（松戸市 藤田 隆）

山のアルバム 2025 夏 2集

第1集 南アルプス塩見岳(7月下旬) ~その1~



三伏山（標高 2,615m）から塩見岳（同 3,052m）遠望。歩程 4 時間ほど。



塩見岳山頂直下。ライチョウとご対面。近くに 4 羽のヒナを伴っていました。



山頂直下のシコンタンソウ。赤と黄色の蜜標が何ともきれいです。



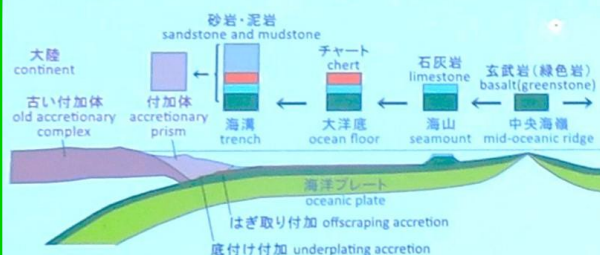
山頂直下、ハイマツの球果。ホシガラスによる食痕と思われる。



山頂直下、赤色チャートの露岩。赤石山脈の語源となっています。

中生代ジュラ紀～白亜紀(2億年前～6600万年前)に、アジア大陸に沈み込んだ海洋プレートからはぎ取られた岩石(付加体)が露出しています。

付加体の岩石が誕生した場所と移動 Origin of Accretionary Complex Rocks



地元大鹿村によって登山口に設置された、プレート付加体に関する解説看板の一部。

第1集 南アルプス塩見岳(7月下旬)

～その2～



三伏峠（(標高 2,580m) 付近、
高山植物防鹿柵。



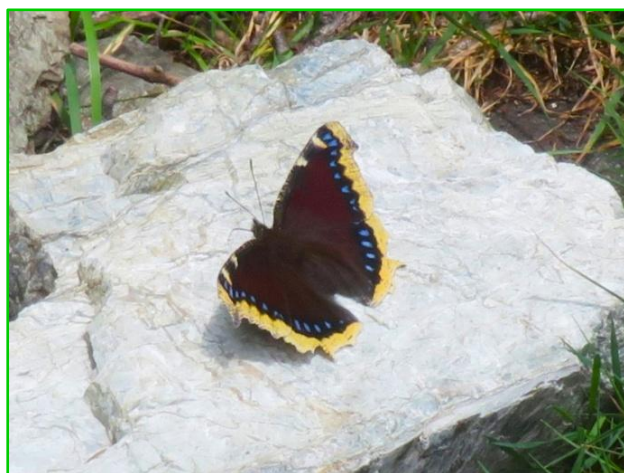
防鹿柵内のシナノキンバイ、
紫色はタカネマツムシソウ。



標高 2,000m 付近、少々色あせてま
すが、ベニテングタケと思われます。



バイケイソウ。鹿が嫌う有毒植物。緑色の模様
がきれいですが、匂いがよろしくありません。



下山途中の林道で、キベリタテハがポーズ
をとってくれました。寒冷地の蝶です。

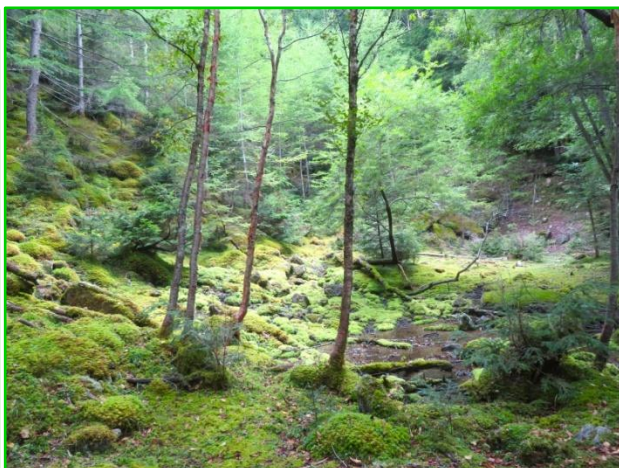


下山途中、クロイチゴの実がとても美味しか
ったです。山地の林縁などに生育します。

第2集 奥秩父山系甲武信岳〔8月下旬〕



千曲川信濃川水源地（標高 2,160m）。
日本一の大河の始まりと思うと感慨深い。



一面苔むした針葉樹林。まるで『シシ
神』の森のような、幽玄で神秘的景観。



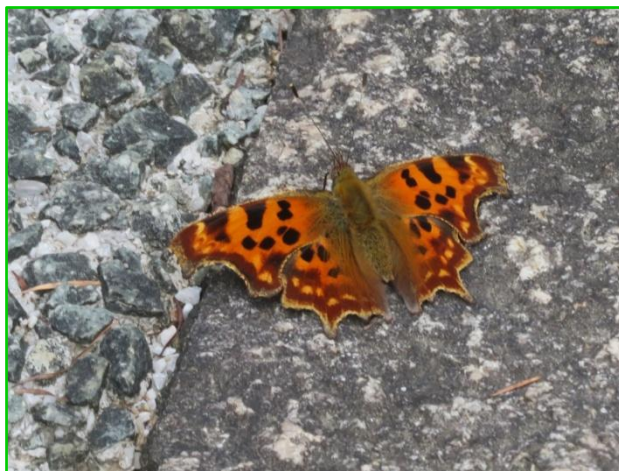
ミヤマモジズリ。山地から亜高山帯の針葉樹
林内などに生育。初めてのご対面でした。



ヤマトリカブトと思われます。ツクバトリ
カブトとは葉の切れ込みが違うようです。



旅する蝶アサギマダラ。マルバダケブ
キの花にとまってくれました。



下山後の駐車場でご対面のシータテハ。山地
性。羽の裏に C 字型の模様があるそうです。

（記：茂原市 望月力智）

秋の三番瀬

船橋三番瀬海浜公園の前には広大な干潟があって、春の潮干狩りシーズンは大にぎわいです。また、シギ、チドリを始め多くの水鳥が見られる事から私も年に何回かは野鳥撮影出かけています。9月16日は日の出時刻から干潟に入れる若潮でした。満潮になる前の午前中に撮影出来たものの一部です。



ヒョットコ顔を連想させるソリハシシギ



嘴で2枚貝を探すオバシギ



ビル群バックのダイサギはボラの稚魚が目当て



小さくて当年生まれみたいだからトウネン



夏羽から冬羽に衣替え中のミユビシギ



満ち潮に追われて一か所に集まる ダイゼンなど

私が野鳥撮影を始めた 30 年前、渡りシーズンの干潟はシギ、チドリがうじゃうじゃいて目が回るようでした。今の干潟を見るとカメラマンばかりが目立って肝心の鳥には往時の賑わいがありません。急激な減少を見るにつけ鳥にとっての地球環境がどれほど悪化したのか、いつも考えさせられます。

佐倉市 坂本 文雄